

ポンプ車の更新について（3.5 t 未満型検討結果）

現行型5t未満（西東京市導入型）



車両総重量 3.5 t 未満



	西東京市導入型	3.5t未満型	現行型との比較
全長	5640mm	5135mm	-505mm
全幅	1880mm	1850mm	-30mm
全高	2600mm	2280mm	-320mm
WB	2750mm	2545mm	-205mm
OH	1600mm	1630mm	+30mm
最小回転半径	5.7m	4.8m	-1.1m
乗車人員	10人	6人	-4人

【メリット】

- ・普通免許（3.5 t 未満）での運行が可能
- ・狭隘な道路での通行性が向上

【デメリット】

- ・PTO接続時の手順が複雑となる。
- ・オーバーハングと最小回転半径の関係から、右左折時にオーバーハングの張り出しが大きくなる。
- ・ポンプ水圧が低いため、操法大会で送水が1～2秒遅くなる。
- ・車両後部に乗車スペースを設けることは不可
- ・軽量化のため素材が高価となり、車両価格は同程度

【PTO接続手順】

《事前準備》
①停車
②シフトレバーP
③パーキング
ブレーキを引く

- 1 eモニタースイッチ押下
①緑点灯⇒赤点灯

2 ブレーキを踏みながら
Pブレーキスイッチ押下
②緑点灯⇒赤点灯

3 シフトレバーをNに入れる
③緑点灯⇒赤点灯
- 4 パーキングブレーキを下す
④緑点灯⇒赤点灯
※警告音あり

5 ブレーキを踏みながら
PTOスイッチを押下
⑤緑点灯⇒緑赤点滅⇒赤点灯
※赤点灯を確認するまで次には進まない
- 6 シフトレバーをDに入れる
⑥緑点灯⇒赤点灯
※PTOが切り替わりエンジンの回転が上がる
※下車時、パーキングブレーキは下げたままにする

《ポンプ車の運用面について》
3.5 t 未満型を視察した結果、左記の
PTO接続手順が現行型に対し非常に複雑であり、現行車両と大きく異なる。

ポンプ車の更新について（3.5 t 未満型検討結果）

「免許区分について」

過去5年の新入団員52名 平均年齢40.5歳 普通免許6名 免許なし2名 他は準中型5 t 以上を所有
免許制度の改正平成29年 **新入団員全員が普通免許取得者になるのは おおよそ令和21年頃**と予想。

「準中型免許取得助成について」

令和7年度より、**西東京市消防団準中型免許取得費用助成金交付要綱**が定められた。
全団員218名中、普通免許9名、うち1名が準中型免許を取得予定。来年度も1名分の予算を要求している。

免許区分は課題だが、時間的な猶予がある。

「資機材の積載について」

3.5t未満ポンプ車は車体の軽量化により3.5t未満とし、車両サイズを現行型に近づけている。そのため**現行車と同じ感覚で資機材を積載すると過積載となる可能性**があり、積載量に注意が必要である。

現行型と同じ量の資機材は積載できない。

「3.5t未満ポンプ車について」

現状、**3.5t未満ポンプ車はモリタのみが製造**している状況であるが、今後他社の3.5t未満ポンプ車が発売されれば、新技術の開発やコストダウンが期待できる。

今後の動向を注視する。

【メリット】

- ・普通免許（3.5 t 未満）での運行が可能
- ・狭隘な道路での通行性が向上
- ・ポンプ性能は現行型と同じ

【デメリット】

- ・PTO接続時の手順が複雑となる。
- ・資機材の積載量に注意が必要
- ・軽量化のため素材が高価となり、車両価格は同程度

「更新車両について」

検討の結果、現状の3.5t未満ポンプ車は**PTO接続手順や積載量などポンプ車運用面での課題が多い**。また、運転免許区分については、課題ではあるが時間的な猶予もあることから、**来年度からのポンプ車更新は現行型のポンプ車**とします。